

訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生への 支援・対応ガイド（実践編）

（訓練現場における事例を基にした支援・対応方法のヒント集）

「訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生への支援・対応ガイド（実践編）」（以下「支援・対応ガイド」）は、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」）が、職業能力開発大学校、附属職業能力開発短期大学校、職業能力開発短期大学校（以下「能開大等」）で訓練・学習の進捗等に特別な配慮が必要な学生（以下「配慮を必要とする学生」）の支援・対応の事例を集め、障害者職業総合センター及び職業能力開発総合大学校のノウハウの結集と研究成果を通して、取りまとめた支援・対応方法のガイドです。

教育訓練機関等で、配慮を必要とする学生の支援・対応の一層の充実のためのヒント集として、また、研修の資料としてご活用いただければ幸いです。

1 ● 支援・対応ガイドについて

支援・対応ガイドは、機構が運営する能開大等における授業（講義、実習、実験）、課外活動、就職指導等の各々の場面で、配慮を必要とする学生に対し行った支援等の事例を基に分析を行い、支援・対応方法の参考となるようイラストを活用して分かりやすく説明したヒント集です。同時に、配慮を必要とする学生の支援・対応に係る研修のテキストとしても活用いただけます。



2 ● 支援・対応ガイドの概要

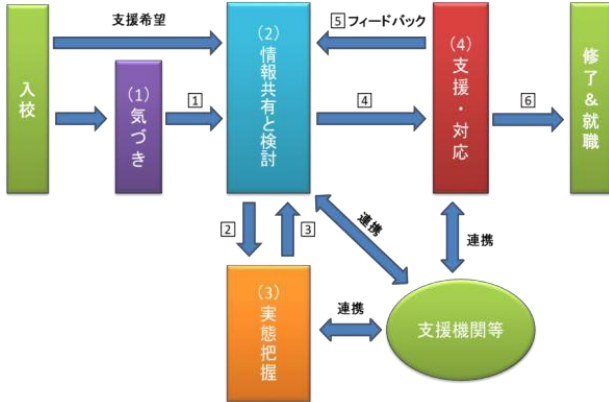
第1章 支援・対応ガイドの活用方法

1. 支援・対応ガイドの使い方
2. ガイドで使用されている「指導」と「支援」の定義の違い
3. 配慮を必要とする学生から想起される障害
4. 実際に能開大等で報告のあった障害の概要
5. 校全体での支援と対応の必要性
6. 関係法令



第2章 配慮を必要とする学生への支援の流れ

能開大等で配慮を必要とする学生に対する支援・指導を行うため、事例をもとに整理した支援の流れを図に示し、各々の段階ごとに各場面でイラストを活用しながら説明しています。



(1) 気づき

日々の学生の行動の中から、事例を分析し、配慮を必要とする学生の行動特性の気づきのポイントと同時に、対象となる行動に至る原因などを記載

2.1 支援の流れ - (1) 気づき

【授業中での気づき】

- 他の学生に比べて、物や机にぶつかる、よく転ぶ。
- 教室の温度が少し変わると暑がったり、暑がったりする。
- どろどろした教室にいることが耐えられない。
- 教室や時間割の変更があると必ず遅刻してくる。
- いつも何か探している。
- 忘れ物が多かったり、辞書や教室に物を置き忘れることが多い。
- 機械や工具を指導員の許可なく取り出す。
- 学生全員に出した指示をよく聞き逃らす。
- 遅刻欠席が多い。
- 授業外の音が聞こえたとそわそわしている。
- 授業中に演習やゲームに夢中になっている。
- 授業中に行う演習等が早く終わると、寝ていたり授業と関係のないことを仕舞う。
- 時計の秒針の狂いをすぐ直す。
- 別の学生を指導していると、自分のことだと勘違いし泣き出す。
- 機内物に気づかない。
- 配付物に気づかない、忘れて帰ってしまうことがある。

【もしかしたらこんなことが原因です】

- 短期の記憶に問題がありすぐに混乱する。
- 神経過敏があり温度や音に敏感に反応する。
- 暗黙のルールがよく分からない。
- 全体的な注意が、自分にも注意されていると理解できない。
- 全体的な注意は、自分に関係がないと誤っている。
- 物事に集中すると状況が分からなくなる。
- 優先順位がよく分からない。
- 身体をうろ覚えしない。
- 他人と自分の距離感が分からない。

- 授業中に演習やゲームに夢中になっている。
- 教室の変更があると必ず遅刻してくる。
- 教室の温度が少し変わると暑がったり、暑がったりする。
- 授業中に行う演習等が早く終わると、寝ていたり授業と関係のないことを仕舞う。
- 別の学生を指導していると、自分のことだと勘違いし泣き出す。

(2) 情報共有と検討

情報共有と検討の方法などを記載

第3章 各種の情報

外部支援機関などの概要や本ガイドで使用した言葉の定義などが記載されています。

(3) 実態把握

面談するときの環境の調整法、面談などを通して本人の状況を把握する場合のノウハウなどを記載

(4) 支援・対応

集合訓練の中で個別支援を行うことなく、訓練を行っていくための工夫、就職指導を行う場合の相談、支援方法に関する流れなどを記載

また、他の支援機関へ相談する場合の情報や相談の仕方なども記載

2.1 支援の流れ - (4) 支援・対応 - □ 行動特性別の訓練環境の工夫

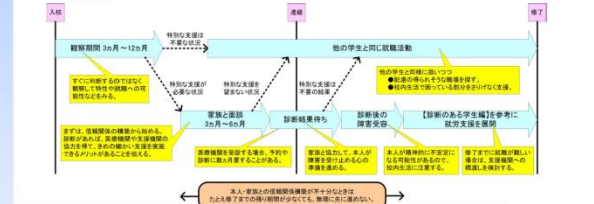
授業での行動特性	工夫事例
<ul style="list-style-type: none"> 授業中、外の音や机の上のものが気になり、授業に集中できない。 授業中、いつと違うものがあると気になり、授業に集中できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 気が触れないように、扉扉は前の方にした。 扉扉等で音を抑えた。 教室に必要なものは置かないようにした。 実習機材等は必要になるまで机に置いておくことにした。 講義が中心になるような場合は、パソコン室、実習室を使わないようにした。 パソコン室や実習室を事前に予約してインターネットをオフにしておく。
<ul style="list-style-type: none"> 遠回しな表現では理解できない。 想像を含む説明をすると理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材に動画等を利用して視覚的に分かるようにした。 具体的な写真やイラストを添えて説明した。 板書と組み合わせることで、学生の緊張感を維持すること。
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の冷房、暖房等の温度変化に敏感に反応し暑がったり暑がたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装で調整するように本人に伝え、薄手の服を複数重ね着させる等の工夫をさせた。 教室ではできないだけ、温度変化が少ない場所を選びその席に座らせた。 空調過敏で温度に敏感なので、調整するような指導をしないこと。



二 就職活動の流れ(診断のない学生)

(イ) 特別な配慮が必要な状況(能力が高く就職できそうな場合)
これまでの授業の様子から、働くという場面で想定される本人の特性について、本人・家族と情報を共有しながら、本人が能力を発揮でき、かつ理解ある職場への就職を探る。

(ロ) 特別な配慮が必要な状況(支援機関の力を借りないと就職が難しい場合)
時期を見て、本人と家族に障害の可能性を伝える。理解を示すまで、何度も面談を続けていき、本人と家族の理解が得られ次第、医療機関を受診する。診断結果が出たら、地域障害者職業センター等の支援機関と連携した就職への道を探る。



2.1 支援の流れ - (4) 支援・対応 - 二 就職活動の流れ(診断のない学生)

お問い合わせ先

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業能力開発総合大学校
基盤整備センター開発部
高度技能者養成訓練開発室

・電話：042-348-5078
・メール：support@tetras.uitec.jeed.or.jp